



介護老人保健施設 アゼリア

安全、安心な療養環境を目指して

～転倒・転落アセスメントシートとセンサーベッドの運用～

医療法人社団 珠泉会
介護老人保健施設 アゼリア
介護福祉士 施設R M 渡邊 徹

協力：パラマウントベッド株式会社

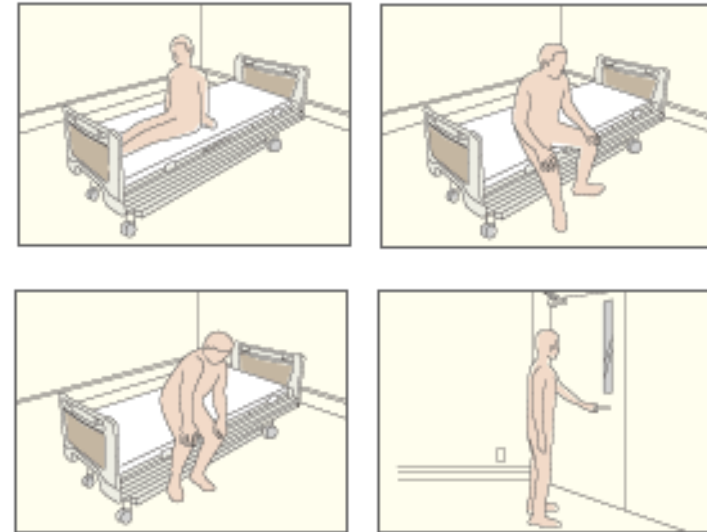
16-第3-06-1

東京都昭島市 介護老人保健施設アゼリア

一般棟 106床 専門棟 40床 計 146床



離床センサー内蔵ベッドの導入



- 検知率が非常に良いため、転倒・転落の危険が発生する前に駆けつけることができた
- 起き上がり設定により、リスクの高い方を、より早く検知することができた



課題

- 離床センサー内蔵ベッドをもっと使いこなしたい
- 転倒・転落リスクの評価・運用が標準化されていない
- 離床センサー内蔵ベッド使用者の判断が統一されていない

目的・方法

目的

入所者の評価基準および対策基準の標準化による重症事故予防

- ①入所者を客観的に評価する基準の標準化および運用ルール整備
- ②離床センサー内蔵ベッドの使用対象者選定ルールの標準化

対象者

2Fフロア	入所者56名	離床センサー内蔵ベッド8台
3Fフロア	入所者50名	離床センサー内蔵ベッド8台

方法

転倒・転落アセスメントスコアシートおよびセンサーベッド選定フローの運用

- ① -1 転倒・転落アセスメントスコアシートの作成
- 2 入所者へ仮運用実施、シート修正
- 3 運用ガイドラインの導入、評価
- ② -1 転倒・転落アセスメントスコアシートと紐付く離床センサーの使用対象者の選定フロー作成
- 2 選定フローの導入、評価

アセスメントシート・センサー選定フローの作成

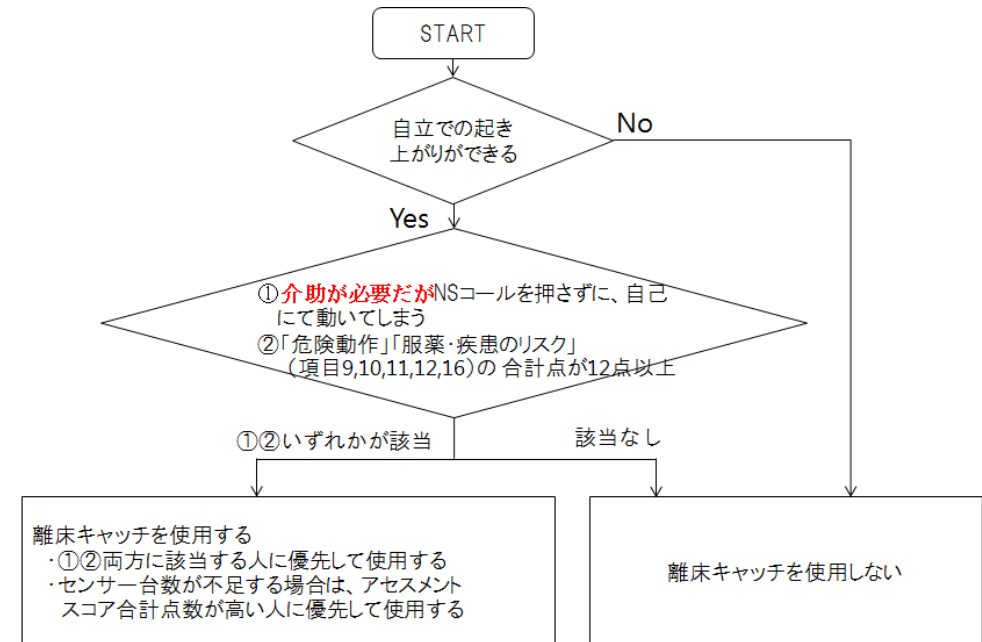
○転倒・転落アセスメントスコアシートを作成し、入所者への仮運用とその結果分析を実施
→一部項目を修正し、重要項目を抽出

○アセスメントを元に、離床センサー内蔵ベッドの使用対象者を選定するフローを作成
→アセスメントシートへ組込

転倒リスク アセスメントシート		利用者名:		
センサーチェック項目	自立での起き上がりができる (はい:○ いいえ:×) NSコールを押さずに自己にて動いてしまう (はい:○ いいえ:×)			
転倒リスク分類	アセスメントチェック項目	合計	合計	合計
歩行・移乗能力の低下	1. 過去に一度でも転倒したことや骨折歴がある。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	2. 筋力の低下があり、歩行状態が不安定である。 (すり足・小刻み歩行・前後姿勢・突進歩行) (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	3. 麻痺、しびれ、骨・関節の異常(拘縮・変形など)がある。 (重度3点・軽度1点・ない0点)			
	4. 座位保持に見守り以上の介助が必要である。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	5. 移乗動作に見守り以上の介助が必要である。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	6. 歩行補助具を使用している。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	7. 排泄動作やスリッパの上げ下げに見守り以上の介助が必要である。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
	8. 認知症、又は判断力や理解力の低下が認められる。 (ある4点・どちらともいえない1点・ない0点)			
危険動作	9. 起立動作時見守り以上の介助が必要な利用者で車椅子や椅子から立ち上がる行為がある。 (毎回3点・時々1点・いれない0点)			
	10. 移乗時、車椅子のブレーキの使用忘れがある。 (時々忘れる3点・どちらでもない1点・いれない0点)			
	11. 靴の履き忘れがある。 (毎回3点・時々1点・いれない0点)			
	12. トイレ使用後等、必要時NSコールが使用出来ない。 (毎回3点・時々1点・いれない0点)			
感覚障害	13. 歩行時足裏感覚が鈍い(周囲が濡れている音が聞こえない状態) (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
睡眠状態	14. 夜間不眠である。 (ほぼ毎日3点・時々1点・良眠0点)			
夜間排泄	15. 夜間トイレへの起き出しが頻回である。 (3回以上3点・2回以下1点・ない0点)			
服薬・疾患によるリスク	16. ①睡眠剤・降圧剤・向精神薬・下剤の服用。 ②パーキンソンや高血圧症等転倒に繋がる疾患や症状がある。 (該当があれば4点・どちらともいえない1点・ない0点)			
コミュニケーション能力	17. お互いのコミュニケーションが図れない事がある。 (ある3点・どちらともいえない1点・ない0点)			
行動障害	18. 徘徊・不潔行為・異食・暴言暴力・大声・昼夜逆転 介護拒否・他者干渉 (該当があれば3点)			
危険度	高リスク40点以上・中リスク20点以上・低リスク19点以下	合計	合計	合計
対策必要度(センサー使用)	「危険動作」、「服薬・疾患によるリスク」(項目9~12,16)の合計点			
センサー選定フロー判断結果	センサー選定フローによる、センサー使用判断 (使用:○ 不使用:×)			
実際のセンサー使用の有無	実際のセンサー使用の有無 (使用:○ 不使用:×)			

項目を追加

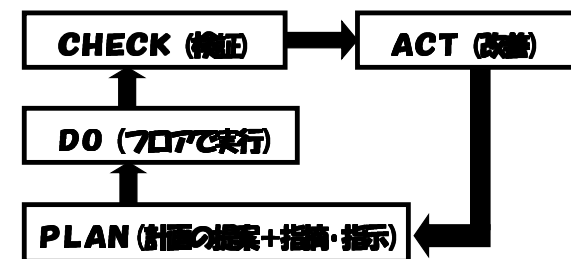
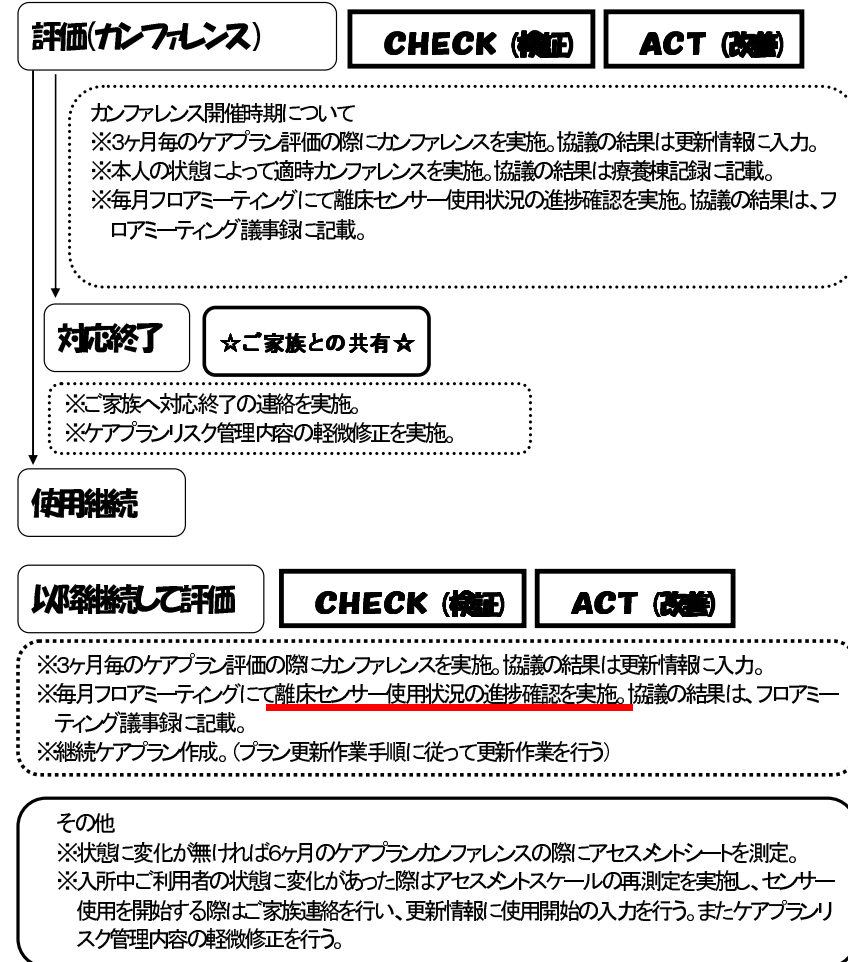
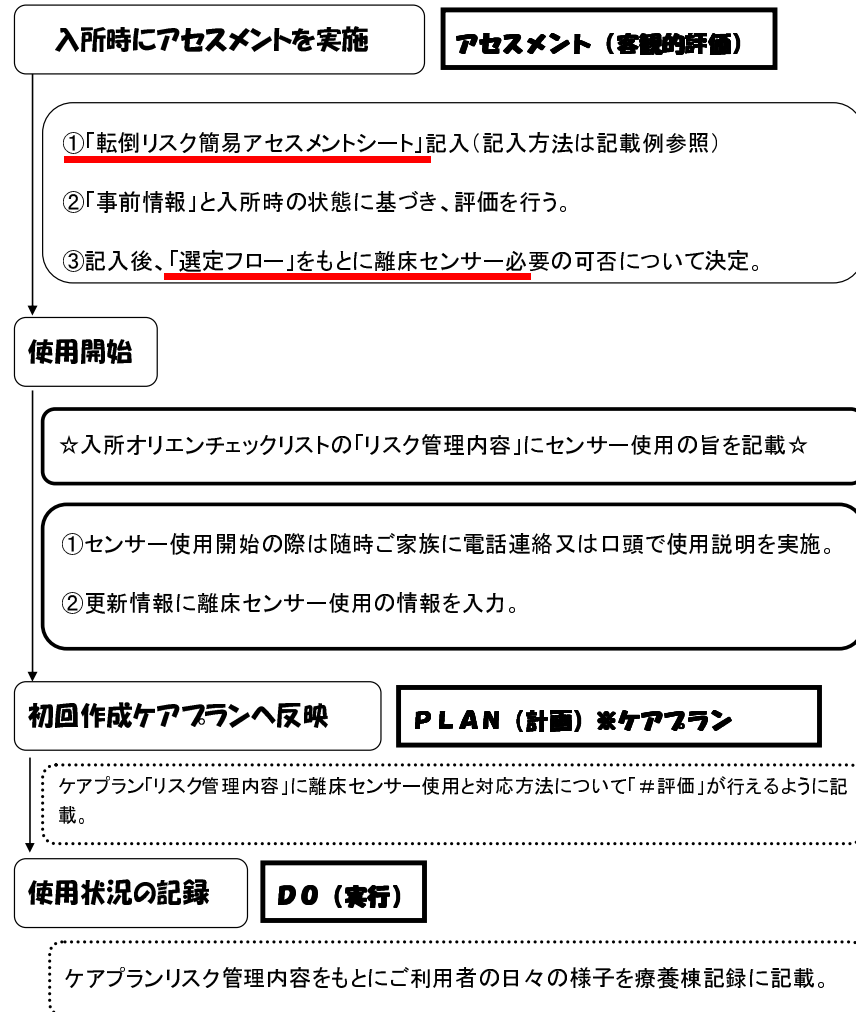
重要度が高い



アセスメントシート運用ガイドラインの作成

○PDCAサイクルによって統一した運用ができるようにアセスメントシートの運用ガイドラインを作成

☆転倒リスク簡易アセスメントシート 運用ガイドライン☆



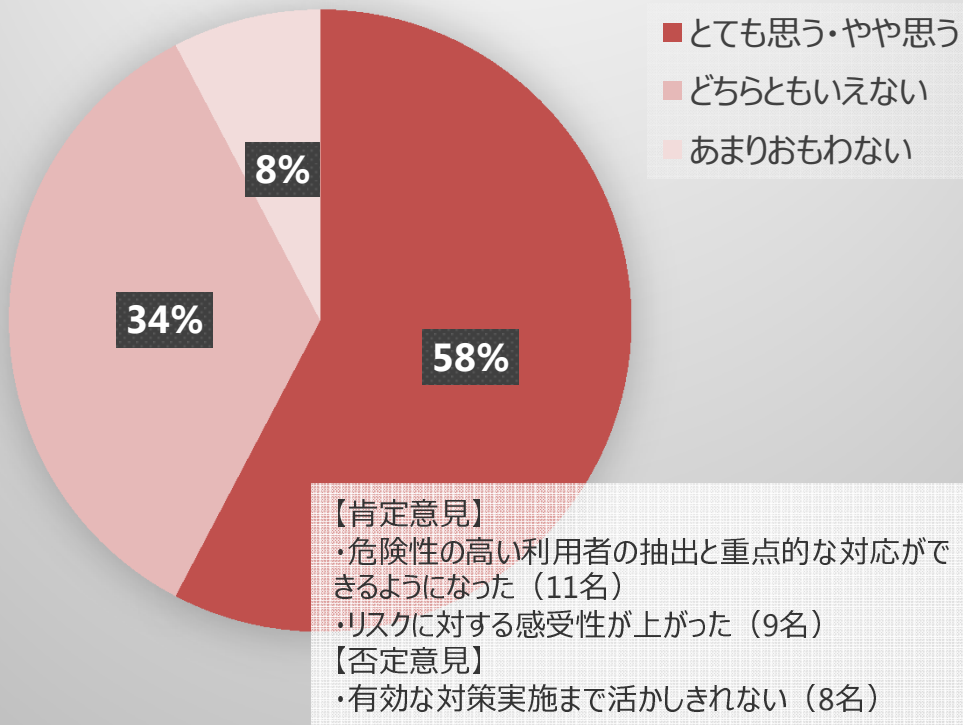
結果①職員アンケート実施

○対象人数 施設職員28名 回収率100%

○5ヶ月間（H28年1～5月）の運用後にアンケート実施

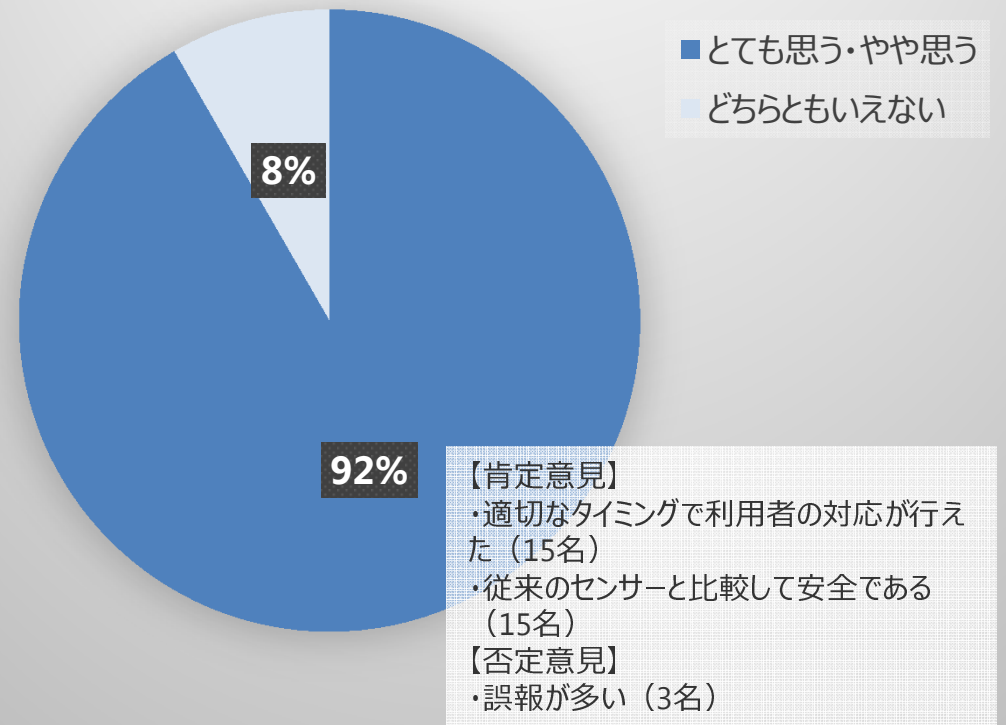
アセスメントシートは有効か

肯定：58%

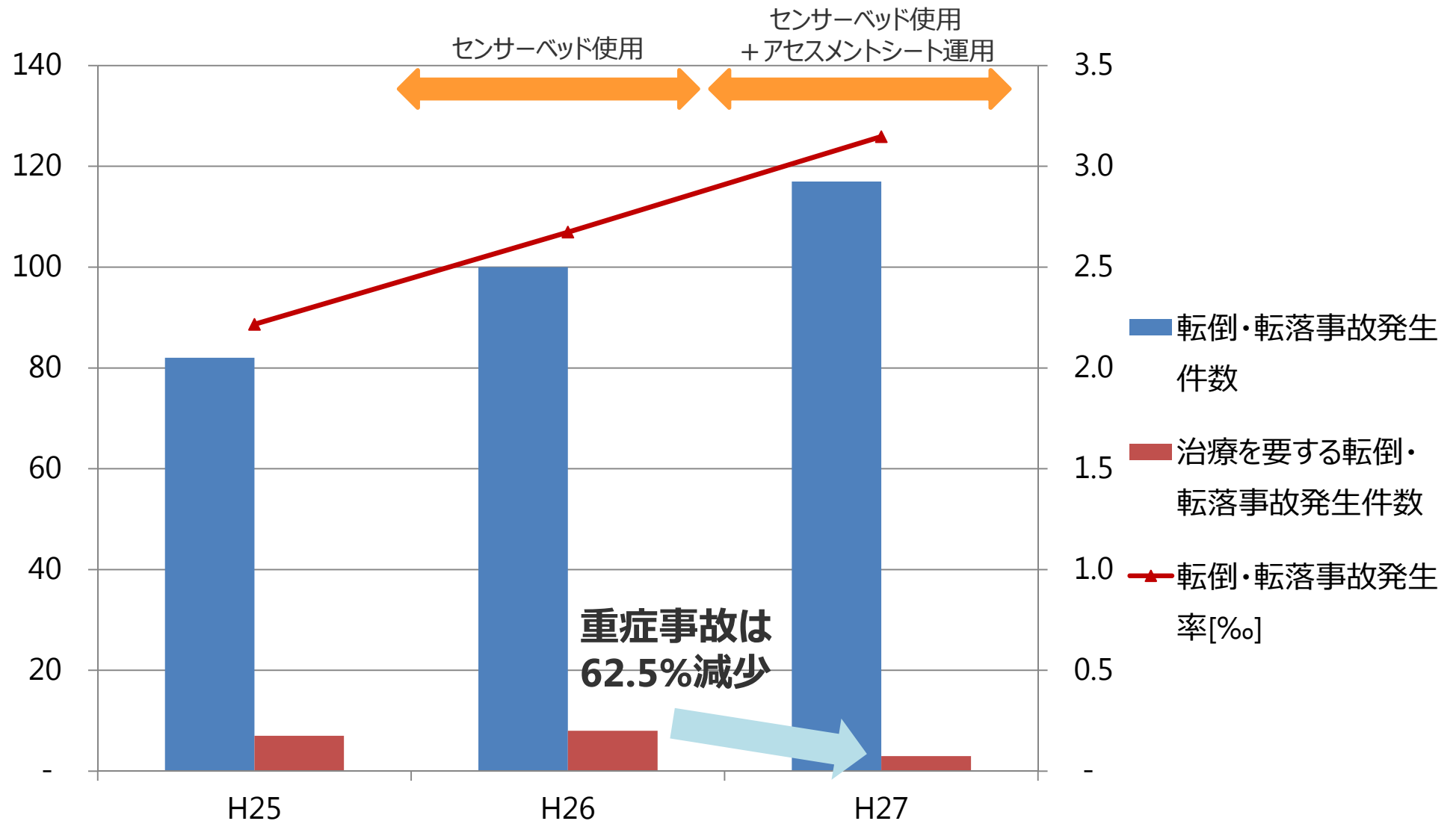


センサーベッドは有効か

肯定：92%



結果②転倒・転落事故発生件数



- 転倒・転落事故発生件数は増加・・・平成26年に事故の取り扱いを変更したことが影響
- 治療を要する転倒・転落事故発生件数は減少・・・運用の結果と考えられる

まとめ

結果

- ①施設にあわせた転倒・転落アセスメントスコアシートの作成・運用を開始することができた
 - ②対策の紐付けとして、センサー選定フローの作成・運用を開始することができた
- ⇒センサーベッドおよびアセスメントシートの運用によって、重症事故発生件数の減少に繋がった

考察

- センサー選定フローの判定結果と実際の使用状況が異なるケースが存在した
- アセスメントシートおよびセンサー選定フローを正しく使用していないケースが存在した

今後の課題

- ①通常業務としての測定実施。ガイドライン適正運用の確認。
- ②アセスメントシートの必要性や内容への理解、教育ツールとしての活用。
- ③今後も継続してデータを収集し、アセスメントシート・選定フローの精度を高める。
- ④パラマウントベッドと共に事故予防について研究を続ける。

ご清聴ありがとうございました。